

防災事業ガイド

(小中学校用)



前橋市 防災危機管理課

令和8年2月

防災危機管理課では、災害時の指定避難所となる学校において、防災事業を継続的に行うことで、子どもたちはもちろん、先生や保護者のみなさんに防災について関心を高めていただく機会になると考えています。

そのため、児童生徒が楽しみながら防災に触れる機会を用意し、さまざまな形で学校の防災事業を支援できる体制を整えていますので、事業実施についてぜひご検討ください。

防災事業実施までの流れ

以下の流れは、市（防災危機管理課）が支援する防災事業を行うにあたっての相談から実施までの一般的な段取りです。

①意向調査の検討・回答

以下について話し合います

- ・ 防災事業を実施するかどうか
- ・ 事業の実施時期や実施日程はいつにするか
- ・ 事業の内容はどのようなものにするか
（学習的なもの、体験的なもの、実践的なもの）

②回答結果を調整

防災危機管理課が回答内容を踏まえて調整します

- ・ 希望日程で支援体制を確保できるか
- ・ 企画案を実施するのに支障等ないか
- ・ 地震体験車等の日程は確保できるか

③市から学校へ連絡

調整結果を学校へ連絡します

- ・ 事業実施日程を決定
- ・ 具体的な実施内容の相談開始
（相談する中で内容が変更しても構いません）

④調整・事前準備

学校と防災危機管理課で相談しながら実施内容を決定します

- ・ 概ね1か月前までに実施概要を整理
- ・ 必要に応じて実施前に関係者へ案内を通知
（保護者・PTA、関係自治会など）
- ・ 必要に応じて児童・生徒へ事前課題を出します

⑤防災事業実施 【事前及び当日の資機材・物資等の準備は防災危機管理課が対応】

1 事業実施ガイド

防災事業では、災害発生時の行動や平時の備えのあり方について学ぶ講話型の事業や防災資機材の設置や組立などを実際に行う体験型の事業、カードゲームなどで防災について議論するシミュレーション型の事業など、幅広いメニューを用意しています。

実施内容は、事業実施の目的に照らし合わせ、個別メニューを組み合わせながら、全体構成を検討できる形で整理しました。

企画・実施にあたってのポイントは以下のとおりです。

■企画にあたってのポイント

- ・実施メニューは、対象学年や児童・生徒数を考慮して決めましょう。
- ・児童・生徒にとって、事業内容が同じものの繰り返しにならないことが理想です。毎年度、同じ内容で実施する場合は、対象学年を限定する形がよいでしょう。また、全校で実施する場合は、2～3年のローテーションで実施内容を変更するのがよいでしょう。
- ・「地震」「避難所」などのテーマを設けて、各メニューを組み合わせ実施するとより効果的です。

★内容が未定の場合は、防災危機管理課にご相談してください。担当職員が事業企画の段階から一緒に進めさせていただきます。

■実施にあたってのポイント

- ・会場は、体育館または校庭での実施を基本とします。
- ・体験型事業の場合は、ある程度人数を絞った方が一人一人の児童・生徒が体験する時間を確保できます。

★各教室を会場とし、校内放送によってリモートで実施できるものもあります。

(1) 事業モデル

これまでの実施事例を基に、参考になる事業モデルをまとめました。

各事例は、児童・生徒が、災害を我が事として感じられるよう、実際に防災資機材に触れ、主体的に防災を考えることに配慮してメニューを組み合わせしており、子どもたちに楽しみながら参加してもらうことができます。

また、どのモデルにおいても防災危機管理課職員が講師及びサポート役を担うため、事業当日に先生に対応いただくことはほとんどなく、事前準備の手間も極力かからない形になっています。

【事例 1】地震について学ぶ（避難訓練同時実施）

- ★ 学校の避難訓練（地震）にあわせて事業を実施
- ★ 代表生徒等による地震体験車の搭乗を見学しながら、地震発生時の行動等について学びます
- ★ 小学校と中学校のどちらでも実施可（講話内容は調整します）

全体所要時間：1校時（45～50分間）		
訓練内容	所要時間	概要
①避難訓練（地震）	15分程度	【学校行事】 <ul style="list-style-type: none"> ・地震発生放送⇒避難指示 ・各教室から校庭へ避難 ・校庭で整列 ・校長先生から避難訓練講評
②地震体験車を活用した防災啓発	30分程度	地震体験車を活用した防災啓発 代表者の乗車（計6回程度） <ul style="list-style-type: none"> ①震度4、震度5強 【Jアラート、学校が避難所になるとき】 ②震度6強 【前橋市の想定最大震度】 ③緊急地震速報地震 中級 【緊急地震速報とそのときの動き】 ④緊急地震速報地震 上級 【安全確保行動の種類】 ⑤熊本地震 【地震の揺れ方】 ⑥東日本大震災 【大地震とは】 ※過去地震、想定地震あり

- ※ 地震体験車の利用時間は1回あたり概ね2～3分程度かかります。1回あたりの体験人数は最大4人です。体験回数にあわせ、代表で乗車する児童生徒をあらかじめ調整（選定）しておいていただきます。
- ※ 地震体験中は、見学する児童・生徒に向けて地震に関する防災講話を行いながら進めます（マイクは車両設備を使用）。
- ※ 雨天の場合、地震体験車は利用できません。

【実施の様子】



【事例2】避難所について学ぶ（避難訓練同時実施）

- ★学校の避難訓練（地震）にあわせて事業を実施
- ★避難所の資機材を体験しながら、避難所の概要を学びます
- ★小学校と中学校のどちらでも実施可（講話内容は調整します）

全体所要時間：1校時（45～50分間）		
内容	所要時間	概要
①避難訓練	15分程度	【学校行事】 <ul style="list-style-type: none"> ・地震発生放送⇒避難指示 ・各教室から体育館へ避難 ・体育館で整列 ・校長先生から避難訓練講評
②防災講話 （パワーポイント使用）	10分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は避難所になる ・指定避難所の様子（過去の災害事例） ・避難所における感染症対策 ・避難所運営への協力 ・自分たちにできること
③避難所資機材の体験	20分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・居住区の体験（毛布、マット、間仕切） ・簡易トイレ・簡易テントの体験 ・自家発電機・照明の体験 ・段ボールベッドの体験

※ 資機材はあらかじめ用意しておいたものを体験する形とし、倉庫からの搬出や片付けは防災危機管理課が対応します。

※ 防災講話等はスクリーンを利用したパワーポイントによるプレゼンテーションで行います。

【実施の様子】



【事例3】クロスロードゲームで防災を学ぶ(避難訓練同時実施)

- ★学校の避難訓練にあわせて事業を実施
- ★「クロスロードゲーム」によって防災の疑似体験を行います
- ★小学校と中学校のどちらでも実施可(講話内容は調整します)

全体所要時間 : 1校時(45分間～50分間)

内容	所要時間	概要
①避難訓練	15分程度	【学校行事】 <ul style="list-style-type: none"> ・地震発生放送⇒避難指示 ・各教室から体育館へ避難 ・体育館で整列 ・校長先生から避難訓練講評
②クロスロードゲーム ※放送室等からリモートによる講話可能	30分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの概要説明、例題 ★問題1：避難所へのペット同行 【基本的な流れ】 <ul style="list-style-type: none"> ①問題読み上げ(スライド表示) ②YES・NOの挙手～割合確認 ③YESとした理由発表 ④NOとした理由発表 ⑤YES・NOの問題点確認とまとめ 以下同様に繰り返し ★問題2：非常持出袋の取扱い ★問題3：受験生の避難所手伝い ・まとめ クロスロードのまとめ 家で確認(避難先、家庭の備蓄)

※「クロスロード」＝「重大な分かれ道」「人生の岐路」。阪神・淡路大震災において災害対応にあたった実話を基に、実際の対応において被災者等が経験したジレンマの事例を皆で一緒に考えるゲームです。

※防災講話等はスクリーンを利用したパワーポイントによるプレゼンテーションで行います。

【実施の様子】



【事例 4】避難所について体験的・総合的に学ぶ（2 校時で実施）

★災害時の避難所に関して、資機材の設置や組立を体験することに加え、実際の避難所の現場を想像しながら、もしものときには自分はどう行動するのがよいのかを学びます

所要時間：1 校時目（45～50 分間）		
訓練内容	所要時間	概要
①地震体験	30 分程度	・ 代表者による地震体験 ・ 地震に関する防災講話
②防災講話 （指定避難所） ※放送室等からリモートによる講話可能	15 分程度	・ 指定避難所の概要 指定避難所とは、災害時の対応、避難所の様子、感染対策 ・ 学校の避難所利用（配置図説明）

所要時間：2 校時目（45～50 分間）		
訓練内容	所要時間	概要
③避難所の資機材体験	30 分程度	・ 居住区の体験（毛布、マット、間仕切） ・ 簡易トイレ・簡易テントの体験 ・ 自家発電機・照明の体験 ・ 段ボールベッドの体験
④体験振り返り	5 分程度	・ 体験作業の感想「発表」
②事前課題の発表・共有	5 分程度	・ 避難所に必要なもの「発表」 ・ 災害時のボランティア活動「発表」 ⇒それぞれ発表後に解説
③まとめ	5 分程度	・ まとめ
④片付け	10 分程度	・ 資機材の片付け、防災倉庫への搬入

※ 資機材の搬出・組立・片付けのすべてを児童・生徒が行います。資機材によっては、児童・生徒に軍手等の着用をお願いします。

※ 事前に児童・生徒への課題（プリント）を出し、あらかじめ考えた内容を当日に発表する形としています。

※ 防災講話等はスクリーンを利用したパワーポイントによるプレゼンテーションで行います。

【実施の様子】



(2) 事業メニュー紹介

防災事業は、事業モデルに記載したもののほか、防災について「学ぶ」「触れる」メニューを下記のとおり8種類用意しています。

ここでは各メニューの実施内容や実施事例を紹介しますので、企画の際の参考にしてください。


なお、各メニューは、学校の状況や予定、要望にあわせて内容や実施方法を柔軟に調整できます。



【主なメニュー一覧】

- 1 各種防災講話（※リモート開催可）
- 2 防災倉庫の確認
- 3 災害体験（地震体験車）
- 4 避難所資機材の体験
- 5 全員参加型学習（避難所について考える）（※リモート開催可）
- 6 全員参加型学習（クロスロードゲーム）（※リモート開催可）
- 7 全員参加型学習（HUG（避難所運営ゲーム））
- 8 マイ・タイムライン作成（水害）




1 各種防災講話

- ・災害に対応するためには、災害の特性などを正しく理解し、正しく備えることが大切です。
- ・事業目的にあわせたテーマを設定して防災について学びます。

推奨人数	人数制限なし	
推奨学年	全学年 (※小学校全校の場合は低学年対象内容で実施)	
所要時間	実施概要	
10～50 分程度	【テーマ】 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震のはなし、風水害のはなし ・避難所のはなし ・避難所での感染症対策のはなし ・緊急情報の入手とそのときの行動 ・家庭や地域での日頃の備え ・前橋市の防災 など
実施にあたっての注意事項		
<ul style="list-style-type: none"> ・防災講話は、室内で行う形を基本とします（講義に必要な機器（パソコン）は防災危機管理課で用意します）。 ・テーマや内容、実施時間は実施前に相談して調整します。 ・放送室等からリモートによる講話可能 		


2 防災倉庫の確認	
<ul style="list-style-type: none"> 学校に設置している防災倉庫の設置箇所や倉庫内の備蓄内容を確認し、もしものときの利用方法などを学びます。 	
推奨人数	30人程度
推奨学年	全学年
所要時間	実施概要、実施の様子
15分程度	<ul style="list-style-type: none"> 防災倉庫の設置場所確認 防災備蓄の内容説明 避難所開設キットの内容展示 感染症対策キットの説明 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

3 災害体験（地震体験車）	
<ul style="list-style-type: none"> 地震体験車を通じて地震の怖さを自らの体験として学びます。 地震体験とともに地震発生時の行動（シェイクアウト「頭を守る」）についてもあわせて講話します。 	
推奨人数	実施時間に応じて代表者が体験
推奨学年	全学年 (小学校低学年の場合は震度等を調整することあり)
所要時間	実施概要
20分程度 (体験人数による)	<ul style="list-style-type: none"> 地震体験車の展示 地震体験車の体験 地震に関する防災講話（頭を守る、平時の備え）
実施にあたっての注意事項	
<ul style="list-style-type: none"> 地震体験車の利用時間は1回あたり概ね2～3分程度かかります。1回あたりの体験人数は原則2人になるため、20分程度で実施する場合、体験人数の合計は15人前後となります。 地震に関する防災講話は、チラシや地震体験車のスクリーン等を活用して実施します。 雨天の場合は、地震体験車は利用できません。 	

4 避難所資機材の体験	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校に備蓄している防災資機材を実際に展開し、避難所生活がどのようなものになるかを体験して学びます。 	
推奨人数	150人程度まで（20～30人1グループ）
推奨学年	【体験のみ】全学年 【組立・片付けを含む体験】小学校高学年以上
所要時間	実施概要、実施の様子
20分程度 （体験のみ） 40分程度 （組立・片付けを含む体験）	<ul style="list-style-type: none"> ・居住区の体験（毛布、マット、間仕切） ・簡易トイレ・簡易テントの体験 ・自家発電機・照明の体験、段ボールベッドの体験 など <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
実施にあたっての注意事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・体験内容や組み立てる資機材によっては、児童・生徒に軍手等の着用をお願いします。 	
5 全員参加型学習（避難所について考える）	
<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の実際の様子を写真などでみながら、避難所に必要になる機能・配慮や避難所におけるボランティア活動（小学生や中学生が活躍できること）について学びます。 	
推奨人数	150人程度まで
推奨学年	小学校高学年以上
所要時間	実施概要、実施の様子
30分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題（「避難所について考えるなど」）の発表 ・発表内容の共有、課題に対する解説 
実施にあたっての注意事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・事前に児童・生徒への課題（プリント）を出し、あらかじめ考えた内容を当日に発表する形を基本としています。 ・放送室等からリモートによる講話可能 	

6 全員参加型学習（クロスロードゲーム）

- ・「クロスロード」＝「重大な分かれ道」「人生の岐路」。阪神・淡路大震災において災害対応にあたった実話を基に、実際の対応において経験したジレンマの事例を考えるゲームです。
- ・事例を自らの問題として考え、YES・NOで自分の考えを決め、YESの課題・NOの課題などについて意見交換を行いながら災害対応の難しさを学びます。



推奨人数	人数制限なし
推奨学年	小学校高学年以上
所要時間	実施概要
30分程度 (事例数で時間調整可)	<p>【事例の例】 ※1問10分程度で行います</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あなたは市民です。大きな地震のため、避難所に避難しなければなりません。家には家族同然のペット（犬）がいます。ペットを避難所に一緒に連れていきますか、連れていきませんか。 ●あなたは被災者です。地震で自宅は半壊状態、家族そろって避難所へ。ただ日頃の備えが幸いして、非常持ち出し袋には、水も食料も3日分はある。一方避難所には水も食料も持たない家族多数。皆の前で非常持ち出し袋を開けますか。 ●あなたは登校中です。学校へもうすぐ着くというところで地震が発生。見渡すとあたりの家や壁はこわれています。自分の家の様子も気になります。そのまま学校へ行きますか、家に帰りますか。 ●あなたは受験生です。避難所では仕事を手伝う毎日。周りからはとても感謝されていますが、全く勉強が手につかず、このままでは志望校を合格できないかもしれません。勉強に専念しますか、手伝いを続けますか。 

実施にあたっての注意事項

- ・クロスロードゲームは、室内で行う形を基本とします（講義に必要な機器（パソコン）は防災危機管理課で用意します）。
- ・放送室等からリモートによる講話可能

7 全員参加型学習（HUG（避難所運営ゲーム））

- ・避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所に見立てた平面図に配置していくカードゲームです。
- ・避難所で起こるさまざまな出来事にどのように対応していくかをグループで考え、避難所運営を疑似体験により学びます。

推奨人数	70 人まで (1 グループ 10 人程度で 7 グループまで)
推奨学年	小学校高学年以上
所要時間	実施概要、実施の様子
90 分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて役割分担を設定（リーダー、読み上げ役、避難所運営委員会各班など）。 ・進行役の全体説明・ルール説明の後、班ごとにゲーム開始。 ・ゲーム終了後、グループ別にテーマ課題を発表。考え方を共有します。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

実施にあたっての注意事項

- ・HUGは、室内で行う形を基本とします（講義に必要な機器（パソコン）は防災危機管理課で用意します）。
- ・実施にあたっては、長テーブルやイス、筆記用具等のセッティングが必要になります。
- ・必要な物品（カードや図面、その他文具等）は防災危機管理課が準備します。

8 マイ・タイムライン作成（水害）

- ・ マイ・タイムラインとは、台風等の接近により、雨風が強くなる前に自分のとるべき行動や事前の準備について時系列ごとに整理し、あらかじめ作成しておくものです。
- ・ 知っておいてほしい災害に関する知識などクイズを交えながら楽しく学び、それぞれにあったマイ・タイムラインを作成する講座です。

推奨人数

1 学年

推奨学年

小学校高学年以上

所要時間

実施概要、実施の様子

90 程度

- ・ 風水害の学習
- ・ 風水害のマイ・タイムライン作成（行動計画）



実施にあたっての注意事項

- ・ 学校区が浸水想定区域または土砂災害警戒区域に該当していることが前提になります。
- ・ 必要な物品は防災危機管理課が準備します。